

平成 21 年 9 月 28 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2005～2008

課題番号：17320108

研究課題名（和文） 兵庫県加西市・一乗寺の歴史資料（巡礼札）の調査とデータベース化

研究課題名（英文） Research and approach to construct database for Jyunrei-fuda 巡礼札, that is historical and religious records of Ichijyoji 一乗寺 temple, member of Saigoku-Sanjyusan Kannon Reijyou 西国三十三観音霊場, located in Kasai 加西市 city, Hyogo 兵庫県 prefecture.

研究代表者

稲城 信子 (INAGI NOBUKO)

(財)元興寺文化財研究所・研究部・研究員

研究者番号：50106712

研究成果の概要： 本研究は、西国三十三所観音霊場第二十六番札所である法華山一乗寺に参詣した際に奉納された巡礼札を対象としたものである。一乗寺本堂は平成 12～19 年度にわたって解体修理がなされ、天井部等に打ち付けられた大量の札が取り外されたことを契機として、そこに記された巡礼者の氏名・奉納年次・出身地・同行人数等を判読してデータベース化することを主たる目的とした。対象となる札は近世から現代に至る 23,000 点を超えるもので、その記述内容をデータベース化し諸情報を抽出して考察を可能にしたことは、近世期西国巡礼の様態を実証的に研究するための格好、かつ重要な基礎資料を提供する成果となった。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	2,200,000	0	2,200,000
2006年度	1,500,000	0	1,500,000
2007年度	1,500,000	450,000	1,950,000
2008年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
総計	6,700,000	900,000	7,600,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：西国三十三所 一乗寺 巡礼札 追善 逆修 奉納 代参 観音信仰

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究代表者の所属する(財)元興寺文化財研究所は、1967年の創立以来、庶民の仏教信仰にまつわる各種文化財を調査対象としてきた。そのうち、巡礼札は1972年、国宝當麻寺本堂(曼荼羅堂)の解体修理に際して15世紀に奉納されたもの472点が含まれてい

た。その調査成果は『當麻寺民俗資料緊急調査報告書』として刊行されている。これに続き『法隆寺舍利殿松尾寺本堂発見仏教民俗資料緊急調査報告書』(1974年)、奈良市円成寺所蔵の巡礼札の調査を行なっている。これらを受けて国立歴史民俗博物館の事業として巡礼札の調査を1979～82年にかけて行なっ

ている。さらに研究代表者は1983～84年度科学研究費「近畿地方を中心とする霊場寺院の総合的研究」においても巡礼札の調査を担当し、特に一乗寺所在のものについては4,926点を調査した。その成果は「巡礼札からみた西国三十三所信仰」としてまとめられ『西国三十三所霊場寺院の総合的研究』（1990年）に収録・刊行されている。

(2) 巡礼札は西国三十三所寺院においては、廃棄処分されることがあり、必ずしも遺されているわけではない。近世以前の巡礼札が遺されていることが確認されるのは、粉河寺・南法華寺・長谷寺・興福寺南円堂・三室戸寺・石山寺・園城寺観音堂・今熊野観音寺・清水寺・六角堂頂法寺・革堂行願寺・善峯寺・穴太寺・総持寺・勝尾寺・一乗寺・成相寺・松尾寺の18寺である。このうち、1,000点以上の巡礼札を所蔵するのは、善峯寺と一乗寺のみであり、そのほかの大半は100点以内であり、かつ明治以降の奉納である。

(3) 一乗寺本堂所在の巡礼札については、研究代表者による上記調査よりも早く、前田卓氏により天井に打ち付けられた状態のまま6,325枚が調査・分析されており、『巡礼の社会学』（1971年）が刊行されている。研究代表者による調査は、前田氏調査分とは別のもので、本堂長押から見出されたものであった。さらに本調査にて、全点を調査して記載事項をデータベース入力して内容情報を得ることは、近世期の西国巡礼の実体をさらに進んで明らかにするために必要な作業である。

(4) 一乗寺本堂は、平成12～19年度に解体修理されることとなり、天井部を中心として打ち付けられていた大量の巡礼札が一時的に取り外されることとなった。一乗寺本堂内に遺された札は、前田氏調査分と研究代表者調査分を合わせても、これを大きく上回る枚数の巡礼札が存在していることが既に知られるところであり、当初予想では総数2万点を超え、調査には相当な期間が必要と考えられたが、工事竣工時には札を旧位置に復元する計画でもあったため、調査の実施はきわめて緊急性のあるものである。しかしながら、今後の解体修理にともなって全点取り外されることは、これを調査する機会としては絶好なものでもある。

2. 研究の目的

(1) 今次調査着手以前に、前田氏と研究代表者が巡礼札を調査している。一乗寺所在巡礼札の数は上記調査分を大きく上回るものであることが知られるので、西国巡礼の実態

を明らかにするためには既往の調査点数と内容では不十分と考えられた。特に、長押からは天井に打ち付けられていた札より古い年紀のものが発見されており、天井所在分のみを調査・検討対象とすることでは不足であること。次に、重ねた状態で打ち付けられた札の調査が不十分であること。加えて巡礼札の記述内容を分析するにあたり、必要情報を抽出し、統計的な傾向分析を行うためには、記述情報の電子データ化がその点数からしても必須のものと考えられた。

(2) 今次調査では、対象巡礼札を悉皆調査して調査を作成する。調査時間の逼迫が予想されるので、可能な限り画像撮影もおこない再調査に備える。判読した巡礼者の氏名・奉納年次・出身地・同行人数等の情報は、電子化してデータベースを構築し、必要情報の抽出を容易にして後日の分析に供するものとする。

(3) 今次採取した巡礼者の階層や生業などの諸データは、近世期の霊場巡礼信仰を担った庶民階層の実態に迫る基礎資料となるものであり、巡礼者の出身地に所在する地方文書などとあわせて考察・検討を加えることにより、巡礼の様態を明らかにしえるものである。特に、札記載内容の電子データベース化は、統計的な方法にも寄与して、従来の巡礼研究を前進させるものと考えられる。

3. 研究の方法

(1) 研究方法

現地（一乗寺）にて分類・整理して、調査事項を採取し、画像撮影をおこなった上、調査内容の電子データ化を図る。具体的な手順は以下の通り。

札の清掃を行ない、1点ごとに番号を付して、整理袋に納入して分置。

調査作成（材質・法量（縦×横×厚）・形状・墨書銘文などの判読・破損や汚損など現状記述）

画像撮影。墨書不鮮明な場合は、疑似赤外線撮影して後日に備える。

調査採取データを電子データ化

上記の調査手順を予定して着手したが、札がきわめて大量にあり、現地での銘文判読は、調査効率が極めて低く、調査期間の逼迫も想定されたため、調査作成は、法量計測・記載年号の確認・劣化状況を記述するのみにとどめ、銘文の判読はデジタル画像を基に行うこととして、全点の画像撮影を優先した。

調査方法の変更により、現存する巡礼札全点の調査採取を期間内に完了した。

4. 研究成果

(1)巡礼札の点数

平成19年11月、現地での調査が終了した。巡礼札は、天井、長押・壁面に打ち付けられ、天井に11,397点、長押・壁面に11,734点、計23,131点が確認できた。所在場所と点数は下記のとおり。

箱	場所	荷札記号(区分)	番号
赤	内部長押		1~1033
赤	内部長押		1034~1531
赤	内部長押		1532~1641
赤	内部長押		1642~1713
赤	内部長押	ら三~ら五	1714~1792
赤	外陣内法長押裏内外陣境		1793~1845
赤	外内法長押内側	は三~は七	1846~1897
赤	内法長押外部	る三~か三	1898~2079
赤	内法長押外部	る三~か三	2080~2263
赤	内法長押内側	か三~た三外	2264~2379
赤	内陣内法長押裏	と十七~り十七	2380~2419
赤	内法長押外部	そ三~た三	2420~2452
赤	外内法長押内側	と三~り三	2453~2552
赤	外内法長押内側	り三~る三	2553~2683
赤	内陣内法長押裏		2684~2764
赤	西脇陣内法長押裏		2765~2771
赤	内法長押	(位置なし)	2772~2784
赤	内法長押	(位置なし)	2785~2787
赤	外部長押	(位置なし)	2788~3171
	外部	は五~は七	3172
	外部	は九~は十一	3173
	外部	は十九~ほ十九	3174~3175
	外部	は三~は五	3176~3179
	外部	ほ三~と三	3180~3188
	外部	り三~る三	3189~3197
	外部	は五~は七	3198~3199
	外部	は十三~は十五	3200~3203
	外部	は七~は九	3204~3206
	外部	は七~は九	3207~3208
	外部	た三~そ三	3209~3216
	外部	か三~た三	3217~3229
	外部	る三~か三	3230~3243
	外部	ほ三~と三	3244~3263
		は三~ほ三	3264~3289
		そ三~ね三	3290~3301
		ね三~ら三	3302~3328
		ね五	3329~3331
		ら五~ら七	3332~3412
		81	3413~3414
		(位置なし)	3415
	外部	は七~は九	3416~3418
	外部	は九~は十一	3419~3428
	外部	か三~た三	3429~3440
	外部	と三~り三	3441~3508
	外部	る三~か三	3509~3515
	外部	り三~る三	3516~3519
	外部	ほ三~と三	3520~3528
	外部	は十一~は十三	3529~3533
		(位置なし)	3534~3563
	外部	り三~る三	3564~3620
	外部	る三~か三	3621~3680
	外部	ほ十九~と十九	3681
	外部	と三~り三	3682~3701

箱	場所	荷札記号(区分)	番号
		る三~か三	3702~3733
	虹梁	り五~り九	3734~3784
		か九~た九	3785~3810
	海老虹梁	ね五~ね九	3811~3831
		り三~る三	3832~3852
	虹梁	た五~た九	3853~3871
		ほ九~と九	3872~3896
	柱	ほ五	3897~3900
	虹梁	た五~た九	3901~3935
	海老虹梁	と三~と五	3936~3941
	柱	ね五	3942~3949
	海老虹梁	た三~た五	3950~3953
	海老虹梁	ら三~ね五	3954~3955
	隅海老虹梁	は三~ほ五	3956~3961
	部屋内	は三~ほ三	袋入無札 3962~3980
			袋入無札 3981~3987
			袋入無札 3988~3997
			袋入無札 4018~4031
			袋入無札 4032~4061
			袋入無札 4062~4073
	海老虹梁	り五~た五	4074~4113
		と三~り三	4114~4139
		る九~ら九	4140~4160
		り九~る九	4161~4188
		ら七~ら九	4189~4206
			長押 4207~4217
		か三~た三	4218~4238
		そ九~ね九	4239~4256
	部屋内	は三~は五	4257~4266
			長押 4267~4272
		た九~そ九	4273~4303
		り三~る三	4304~4336
		か三~た三	4337~4350
		そ三~ね三	4351~4368
		り九~る九	4369~4385
	虹梁	ほ五~ほ九	4386~4390
	柱	り五	4391~4443
	部屋内	は七~は九	4444~4467
			長押 4468~4478
	虹梁	ほ五~ほ九	4479~4505
	部屋内	は九~ほ九	4506~4510
			長押 4511~4528
	虹梁	り五~り九	4529~4554
		か九~た九	4555~4578
		か九~た九	4579~4620
	海老虹梁	り五~た五	4621~4659
	海老虹梁	り五~た五	4660~4679
		ら五~ら七	4680~4688
			長押 4689~4702
	頭貫	は三~は五	4703~4709
		そ三~ね三	4710~4723
		ね三~ら三	4724
			長押 4725
		た三~そ三	4726~4739
			長押 4740~4750
			長押 4751~4761
		る三~か三	袋入無札 4762~4765
			袋入無札 4766~4780
			袋入無札 4781~4798
			袋入無札 4799~4811
			袋入無札 4812~4833
		り九~る九	4834~4837
		と九~り九	4838~4861
	虹梁	た五~た九	4862~4866
		ほ三~と三	袋入無札 4867~4871
			袋入無札 4872~4874
			袋入無札 4875
		ほ九~と九	4876~4886
			袋入無札 4887~4891
			袋入無札 4892~4895
			袋入無札 4896~4899
	海老虹梁	か三~か五	4900~4907
	柱	た五	4908~4941

箱	場所	荷札記号(区)	番号
		と九~り九	4942~4948
		と九~と九	4949~4952
		と九~り九	4953~4981
	海老虹梁	り五~た五	4982~5003
		(袋外)	5004
	海老虹梁	は五~ほ五	5005~5006
	部屋内	は三~ほ三	5007~5020
		ほ三~と三	袋入無札 5021~5025
			袋入無札 5026~5030
		り九~る九	5031~5049
		は三~は五	5050~5065
	海老虹梁	り五~た五	5066~5138
	海老虹梁	た五~ね五	5139~5165
		る九~か九	5166~5193
		ね九~ら九	5194~5204
			長押 5205~5215
		る九~か九	5216~5274
		ら三~ら五	5275~5282
			長押 5283~5290
		た九~そ九	5291~5317
	海老虹梁	そ三~そ五	5318~5322
		と三~り三	袋入無札 5323~5327
			袋入無札 5328~5332
		る九~か九	5333
			5334~5381
		そ九~ね九	5382~5419
	海老虹梁	ほ五~り五	5420~5455
		そ九~ね九	5456~5459
		か九~た九	5460~5466



天井部に打ち付けられた札の様子
(外陣西側より)

(2) 巡礼札の特徴

巡礼札の材質は、木製・紙製・金属に大別される。頭部の形態は、角型・圭頭型・隅切型・絵馬型・扇形である。



角型



圭頭型



隅切型

箱	場所	荷札記号(区分)	番号
事務所内	海老虹梁	り五~た五	5467~5478
縁札			5479~5491
物品			5492~5493
物品			5494~5495
別置分			5496~5501
賽銭箱		享和以降	5502~5528
賽銭箱		明和以前	5529~5531
賽銭箱	東賽銭箱(底板下)	安永	5532~5664
賽銭箱	東賽銭箱(底板下)		5665~5888
2007年7月26日整理分	柱間内法長押裏	た九~そ九	5889~5948
2007年7月26日整理分	内法長押	る~か~た	5949~6085
2007年7月26日整理分	東側内腰貫穴及び板決りより	ね十九	6086~6136
2007年7月26日整理分	腰壁のしゃくりより	ね三~そ三	6137~6142
2007年7月26日整理分	腰貫板溝内	ら三~ら五	6143~6183
2007年7月26日整理分	内外陣境長押裏		6184~6200
2007年7月26日整理分	宮殿軒裏	袋入無札	6201~6204
2007年7月26日整理分		袋入無札	6205
2007年7月26日整理分		袋入無札	6206~6217
2007年7月26日整理分	床下(発掘作業時)		6218~6265
2007年7月26日整理分	床下等に散乱		6266~6279
2007年7月26日整理分	(所在情報なし)		6280~6324
	台座下		6325~6436
	追加(11月14日)		6437~6648

以前に調査された巡礼札(上記稲城既調査分)の員数を含めると 28,000 点を超える数が一乗寺に残されている。



絵馬型



扇形

紀年銘がある中で最も古い札は、寛永6年(1629)である。現在の本堂は、元和3年(1617)に焼失し、寛永5年(1628)に再建された。この札は再建後、まもなく奉納されたものとして、貴重である。

最も古い寛永~寛文を第一期、延宝~元禄・宝永期を第二期、第三期は18世紀前半、第四期は18世紀後半、第五期は19世紀初め

～幕末、第六期は明治以降とした。この中で第二期の札の点数が多い。

巡礼者が記したとおもわれる落書が天井・壁面等から発見された。これらは、巡礼札の書式と同様に奉納者の住所・氏名が記される。中でも、紀年銘のあるものが27点確認され、寛永8年(1631)銘のものもみられた。

札には、一枚打ちと花卉型の打ち付けられ方があり、同地域から奉納された札は、「こより」や「釘」でひとまとめにしてあることが多い。紙札では、94枚(安永4年・備前鞆津)や木札では43枚(安永6年・武蔵国埼玉郡)があり、大勢で巡礼に来たのか数人が代参で来たのか不明であるが、おそらく代参で村人の代表者が奉納したものであるうか。代参の具体的な様子は今後の研究がまたれる。

花卉型札から奉納者の数が一致する例(札の裏面に同行二十二人とあり、その人数と札の数が一致)もみられる。

札の書式から地域の特徴がみられた。例えば、長崎銘があるのは、絵馬型や扇形であり、日輪・月輪が左右に記されており、長門では、大型の絵馬で毛利家の家紋があしらわれている。

裏面には、「南無大慈大悲観世音菩薩」と記されている例が多いが、「二世安楽」や戒名が記されているものもあり、追善のために奉納したとおもわれる。

巡礼札以外の奉納物として、「過去帳」・「経典」(観音経)・「寛永通宝」(木札や紙札にくくりつけられていたらしい)・「遺髪・遺骨」・「位牌」や「弘法大師像」等の絵像も残されていた。

(3)今後の展望

大量にある巡礼札の調査に追われ、巡礼札全点をデータベース化して、詳細な分析を行うことができなかつた。巡礼者の出身地、階層や生業などの膨大なデータは、今後の巡礼研究の資料として、近世における西国三十三所観音信仰の実態解明に大きく寄与できるとおもわれる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計1件)

幡鎌一弘

「法華山一乗寺巡礼札からみる近世の西国巡礼と庶民信仰」

『天理大学おやさと研究所年報』16号
査読無 2010年3月

〔図書〕(計2件)

福永文夫・稲継裕昭・幡鎌一弘(共編)
加西市 『加西市史』第9巻 史料編3(近世・近現代) 791頁 2009年3月

福永文夫・今津勝紀・西谷地晴美・幡鎌一弘(共編)
加西市 『加西市史』第8巻 史料編2(古代・中世・近世) 738頁 2006年3月

6. 研究組織

(1)研究代表者

稲城 信子

(財)元興寺文化財研究所・研究部・研究員
50106712

(2)研究分担者

高橋 平明

(財)元興寺文化財研究所・研究部・研究員
60261210

中川 由莉

(財)元興寺文化財研究所・研究部・研究員
30450935

(3)連携研究者

幡鎌 一弘

天理大学・おやさと研究所・准教授
50271424

(4)研究協力者

上田 さち子 大阪府立大学・名誉教授

山形 隆司 芦屋市立美術博物館・学芸員

加西市史編さん室各位